



## 注意

各課題には添付パッケージと呼ばれるファイルが付属しており、CMS上からもデスクトップ上からも取得することができる。

「出力のみ」の課題について:

- 添付パッケージには、テストケースとサンプルテストケースに対する入力が含まれている。1つのテストケースにつき1つの小課題が対応している。
- 複数の出力ファイルを単一のzipファイルにまとめて提出することもできる。その場合は、各出力ファイルを `???.out` というファイル名にすること。ここで、`??` はテストケース番号である (例: `03.out`)。複数のファイルをzipにまとめるには次のようなコマンドを用いることができる: `'zip output.zip *.out'`
- 出力のみの課題には最大100回提出することができる。一部のテストケースに対する出力ファイルのみを提出することもできる。

それ以外の種類の課題について:

- 添付パッケージには、採点プログラムのサンプルと、実装例と、サンプルテストケースと、コンパイル用のスクリプトが含まれる。
- ちょうど1つのファイルを提出する必要がある。また、最大50回提出することができる。
- 提出されたプログラムは標準入力から読み取ったり、標準出力に書き込んだり、その他いかなるファイルともやり取りしてはならない。ただし、標準エラーストリームに出力することは可能である。
- 提出すべきファイルの名前は、課題文の見出し部分で与えられている。提出されたファイルには、課題文で説明されている通りのプロシージャを、実装例で与えられているようなシングネチャを用いて実装する必要がある。
- それ以外のプロシージャを追加で実装してもかまわない。
- 採点プログラムのサンプルを用いてプログラムの動作をテストするときは、入力は課題文で指定されたフォーマットと制約を満たしている必要がある。さもなくば、未定義の動作が発生するかもしれない。

## 慣習

課題文では `bool`, `integer`, `int64`, `int[]` (配列) のような総称的な型名を用いてシングネチャを指定している。

使用可能なそれぞれのプログラミング言語に応じて、採点用プログラムでは以下に挙げるような適切なデータ型または実装を用いる:

言語	<code>bool</code>	<code>integer</code>	<code>int64</code>	<code>int[]</code>	配列 <code>a</code> の長さ
C++	<code>bool</code>	<code>int</code>	<code>long long</code>	<code>std::vector&lt;int&gt;</code>	<code>a.size()</code>
Pascal	<code>boolean</code>	<code>longint</code>	<code>int64</code>	array of <code>longint</code>	<code>Length(a)</code>
Java	<code>boolean</code>	<code>int</code>	<code>long</code>	<code>int[]</code>	<code>a.length</code>

## 制限

課題名	時間制限	メモリ制限
ノウルーズ	出力のみ	出力のみ
配線	1 秒	256 MB
電車のおもちゃ	2 秒	256 MB